



# マスコミ絶賛!!!



60年代を代表するヒッピーの大御所に鮮やかに成りきったジョニー・デップは見事。

この痛快な過去への旅は絶対にお勧め。常識を吹き飛ばす冒険を体験すれば貴方も「狂気」の世界に仲間入り。デップとデル・トロが道案内を引き受けます!ありきたりではないサイケデリックな旅をすると90年代が幼稚園のお遊戯の様に感じられるはず。お腹がよじれるほど可笑しく、ショッキングで目からウロコ体験ができる大冒険!同時代に青春していた人は懐かしめます。それ以外の人は、今から追体験して下さい!

(NBCニュースチャンネル)

見ないと損。素晴らしい作品。ギリアムは魔法の力を心に持っている。

(ワシントンポスト)

ラスベガス万歳!大胆にデップはまたしても未知な才能を開花させた。

(ニュースデイ)

この時代に風穴を開ける作品だ!

(コロブス・ディスパッチ)

この映画は言ってみれば、性格検査のようなものである。全ては見る側の気分、期待、心理状態で変わるものである。

(タイムアウトニューヨーク誌)

## FEAR AND LOATHING IN LAS VEGAS

### 2人の地獄のトリップを加速させるサウンド

The Rolling Stones "Jumpin' Jack Flash" Jefferson Airplane "White Rabbit" Jeff Beck, Tim Bogert, and Carmine Appice "Lady" Tom Jones "She's A Lady" Brewer and Shipley "One Toke Over The Line" Debbie Reynolds "Tammy" Buffalo Springfield "Expecting To Fly" Dead Kennedys "Viva Las Vegas" Three Dog Night "Mama Told Me Not To Come" Frank Sinatra "You're Getting To Be A Habit With Me"

#### STAFF

監督:テリー・ギリアム「未来世紀ブラジル」「12モンキーズ」  
原作:ハンター・S・トンプソン(原作「ラスベガスをやっつける」)  
製作総指揮:ハロルド・ロブソン、リチャード・フーズ、  
パトリック・ワチャスバーク  
プロデューサー:ライラ・ナブルシー、  
パトリック・カザベッティ、ステファン・ネメス  
脚本:テリー・ギリアム、トニー・クリノーニ、  
トッド・ディヴィーズ、アレックス・コックス  
撮影:ニコラ・ペゴリニ「ラスト・エンベラー」「クリフ・ハンガー」  
プロダクション・デザイナー:アレックス・マクドゥエル  
「クロー・飛翔伝説」  
編集:レスリー・ウォーカー「モナリザ」「エマ」  
共同製作:エリオット・L・ローゼンブラット  
衣装:ジュリー・ワイズ「12モンキーズ」「マイルーム」  
オリジナル・スコア:レイ・クーバー、布袋寅泰  
キャスティング:マージェリー・シムキン

#### CAST

ジョニー・デップ「ギルバート・グレイブ」「フェイク」  
ベニチオ・デル・トロ「ユージュアル・サズバックス」「バスティア」  
トビー・マグワイア「カラー・オブ・ハート」  
クリスティナ・リッチ「キャスパー」  
キャメロン・ディアス「メリーに首ったけ」  
エレン・バーキン「ザ・ファン」  
フリー「ビッグ・リボウスキ」  
マーク・ハーモン「君がいた夏」  
ハリー・ディーン・スタントン「シーズ・ソー・ラプリー」

1998年/アメリカ映画/カラー/  
ドルビー・デジタル DTS SDDS/118分/スコープサイズ  
オリジナルサウンドトラック盤:ユニバーサル・ピクチャー株式会社  
日本語字幕:林完治  
配給:株式会社東北新社  
http://www.tfc.co.jp/hiroba  
©1998 UNIVERSAL CITY STUDIOS PRODUCTIONS, INC

GO TO LAS VEGAS!!!!



サミット・エンターテインメント&ユニバーサル・ピクチャーズ提供  
ライノ・フィルムズ、ライラ・ナブルシー・プロダクション制作

心斎橋 パラダイスシネマ  
アメリカ村・ビッグステップ4F  
06(6282)1460

京都朝日シネマ  
河原町三条・京都朝日会館4F  
075(255)6760

今秋、  
ぶっ飛びのロードショー!!

## FEAR AND LOATHING IN LAS VEGAS



ハンター・S・トンプソン原作

テリー・ギリアム監督作品 ジョニー・デップ ベニチオ・デル・トロ

# ラスベガスをやっつける

SUMMIT ENTERTAINMENT AND UNIVERSAL PICTURES PRESENT A RHINO FILMS/LAILA NABULSI PRODUCTION JOHNNY DEPP BENICIO DEL TORO "FEAR & LOATHING IN LAS VEGAS" CASTING BY MARGERY SIMKIN ORIGINAL MUSIC DEvised BY RAY COOPER COSTUME DESIGNER JULIE WEISS CO-PRODUCER ELLIOT LEWIS ROSENBLATT FILM EDITOR LESLEY WALKER PRODUCTION DESIGNER ALEX McDOWELL DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY NICOLA PECORINI EXECUTIVE PRODUCERS HAROLD BRONSON RICHARD FOOS PRODUCED BY LAILA NABULSI PATRICK CASSAVETTI STEPHEN NEMETH SCREENPLAY BY TERRY GILLIAM & TONY GRISONI AND TOD DAVIES & ALEX COX DIRECTED BY TERRY GILLIAM ©1998 UNIVERSAL CITY STUDIOS PRODUCTIONS, INC





# 映画化は不可能…いや、向かないと言われ続けた原作の 映画化に果敢に挑むのは「未来世紀ブラジル」「12モンキーズ」 の奇才テリー・ギリアム

「恥さらしで侮辱的なものが盛りだくさんな作品になった事を、心から申し訳ないと思っています。この映画を世に送り出した事で、何をしでかしたか、何を招いたかは定かではありませんが、前もって謝っておきます、、、」

(監督:テリー・ギリアム)



## TERRY GILLIAM

★★★★★★★★★★★★★★★★

この「ラスベガスをやっつけろ」が1971年にローリング・ストーン誌に発表されて以来、何度か映画化の話が持ち上がった。「この企画は地雷の埋まる平原を進むようなものだ。」とプロデューサーが嘆くいわくつきのこの作品。実に四半世紀もの間この幻想的な世界を映像化できる監督は現れなかった。そこへ名乗りをあげたのが奇才テリー・ギリアム。

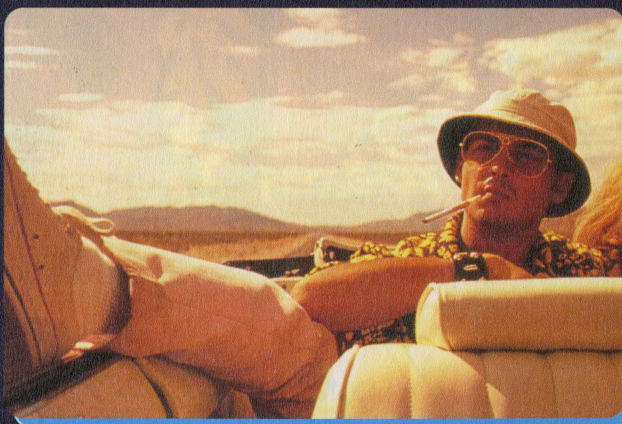
彼の持つ映像作家としての特異な映像センスと演出力に原作者のハンターも映画化を快諾。晴れて雲を掴むようなプロジェクトがスタートした。

ギリアムは語る「この【糞詰まりの時代】に切望される作品だと思っている。どちらかという、今のこの世紀末を生きる人々にとって必要って事さ。この作品は90年代用の浣腸だ!と言いたい。全てを大掃除するためなんだ。」

## 必見!!大変身&怪演ジョニー・デップとベニチオ・デル・トロ

「この映画を通して得た経験をお金に換算したら、誰にも払えない天文学的な金額だね。」

(主演:ジョニー・デップ)



## JOHNNY DEPP + BENICIO DEL TORO

★★★★★★★★★★★★★★★★



今や名実ともにハリウッドのトップスターとなったジョニー・デップ。常に意欲的に新しい役柄に挑戦し、ギリアム監督から「ジョニーには演じられない役柄なんてない。」と言わしめた。本作での彼はまさに驚き。啞えタバコにガニ股歩き、おまけになんと…(それは観てのお楽しみ)。原作者ハンター・S・トンプソンを見事に体現。「ギルバート・グレイブ」「エド・ウッド」「フェイク」…それまでの彼のイメージを一新し、新境地(!)を開拓したことは間違いない。

一方、相棒役のドクター・ゴンゾーには「ユー・ジュアル・サスペクツ」や「バスキア」のベニチオ・デル・トロ。これまたデップに負けず劣らず、ロンゲ、口髭おまけにでっぷり太って太鼓腹。こんな弁護士いるのか?と言いたくなるような怪演はまさに驚きの一言に尽きる。



BASED ON THE BOOK BY  
HUNTER S. THOMPSON

★★★★★★★★★★★★★★★★

1971年に発表された伝説のジャーナリスト、ハンター・S・トンプソンの原作が遂に映画化。世紀末に風穴を開けるこの作品をあなたは観るのではなく体験する!

「1971年、それは神様が創造をしくじった年。」  
(原作者:ハンター・S・トンプソン)

時は1971年。アメリカは自らのアメリカン・ドリームをまさに終焉させようとしていた。泥沼化するベトナム戦争、ビートルズの解散、マンソン事件、ジミ・ヘン、ジャニス、ジム・モリソンは揃ってあの世へ。ウッドストックから発せられた“ラブ&ピース”というメッセージは完全に過去の遺物と化していた。

いつのまにか消えていたアメリカンドリーム。当時のアメリカン・リーダーへの失望、戦争に失望、現実の失望、将来には不安と恐怖で一杯。

そんな中、ハンター・S・トンプソンは、ベンという剣を持って明日なき時代に勝負をかけた。

時代はGONZO!  
20世紀の最も偉大なジャーナリスト、ハンター・S・トンプソン

1971年10月10日、ローリング・ストーン誌4周年記念版でラルフ・ステッドマンの狂気すれすれのイラストとともに、ハンター・S・トンプソンが紹介され、翌月『FEAR AND LOATHING IN LAS VEGAS』が掲載された。アメリカン・ドリームを求める過酷な旅を描いた本作は、評論家から拍手喝采を浴びその存在はまたたく間に全米に広がった。

その後も次々と意欲的な作品を発表し、彼独特の取材スタイル【ゴンゾー(ならず者、不良)・ジャーナリズム】は当時の希望を失った若者たちに圧倒的な支持を受けカリスマ的な存在となる。その事件の真只中に自分の身を投じ、主観的、実況中継的に取材するスタイルはその後のジャーナリストたちにも多大な影響力を持つようになった。

そんな彼の代表作「ラスベガスをやっつけろ」には、ハンターの投げかける「色々あるけれど、楽しんで人生を乗り切ろう!でなきゃ生き延びられないよ!」というメッセージが込められており、そのメッセージは今の時代にも色褪せることは決してない。



## STORY



## 失われたアメリカンドリームを求めて、一路ラスベガスへ

スポーツ記者ラウル・デュークと、サモア人でラウルの弁護士であるドクター・ゴンゾーの二人は、“レッド・シャーク”と名付けられた真っ赤なオープンカーに乗り込み荒野へと続くハイウェイを猛烈なスピードで走らせていた。

彼らに課せられた使命はラスベガスで開催される“ミント400”というバイクレースを取材すること。トランク一杯に“治療薬”と称するありとあらゆるドラッグを詰め込み、彼らは一路ラスベガスへと向かった。

超一流ホテルのスウィートルームに宿泊した彼らは、取材もそっちのけで、早速ドラッグを一発キメこんで、フラフラ。ホテルは荒らし放題、ルームサービスは使い放題。とにかくやりたい放題メチャクチャ。

前途多難なこの旅の先にあるものは?一見、狂ったような行動を続ける彼らの本当の目的とは…。